



# 地域なんでも情報局

第14号

平成26年3月17日発行

長崎市社会福祉協議会  
長崎市上町1番33号

TEL: 828-1281

## 日見地区みんなであつながりタイ

### 地区の活動の現状

日見地区において、1月26日(日)にロードレース大会が開催されました。

日曜日の朝、まだ肌寒い空気の中、日見地区の小中学生をはじめ、一般参加の方たちまで多くの方が参加されました。

毎年恒例のこの行事は、日見地区を挙げてのイベントで、地区のさまざまな方たちが協力しています。学校の先生はもちろん、道路の安全確保のために保護者や、地域の方が道路に立って、安全に配慮したり、走り終わった選手には、お母さんたちが作ったうどんがふるまわれ、地域全体で大会を盛り上げて、地域交流にも一役買っている行事です。



ロードレース大会の様子

このように日見地区では、地域交流の行事が盛んに行われていますが、近年、これらの事業について、担い手不足や、参加者の減少などといったことに悩まされてきました。

日見地区内の自治会や民生委員、育友会、消防団など地区の各種団体では、担い手が年々減少していく状況の中で、今まで行って

きた活動や行事を実施するのが一杯で、新たな活動をするのが難しくなってきました。

### 新たな取り組みへ...

こういった地区の現状に対して、社協日見支部では、地区の団体がもっと連携・協力することで、活動の可能性を広げ、広く協力を呼びかけようと、日見地区の団体に声を掛けて、平成24年の3月から話し合いの場を持ちました。

話し合いの場に集まったのは、社協、自治会、民生委員、老人クラブ、育成協、交通安全協会、PTA、日見幼稚園、日見小学校、日見中学校、総合科学大学、学童保育、消防団、日見郵便局、地域包括支援センター、福祉施設、日見支所といった団体の代表者でした。団体同士の連携・協力を目的として集まったものの、話し合いを始めた当初は、それぞれの団体がいつ、どういった活動をしているのかもはっきり分からない状況でした。

そこで、まずは、各種団体が地域でどんな活動をしているのか、みんなで共有をしようということになり、それから約1年におわたって情報の共有を行い、それぞれ



つながりタイでの協議風景

平成25年度日見地区年間活動予定表

これは、『つながりタイ』で作った、日見地区内の各団体が行っている活動をまとめた「年間活動予定表」です。日見の各世帯に配布され、これを見て、少しでも地域の活動に興味を持ってもらいたいという思いが込められています。

この団体の「つながり」をつくっていきましました。

### みんなであつながりタイ

日見地区の「つながり」をつくったこの話し合いの場は、いつしか「日見地区みんなであつながりタイ」(以下「つながりタイ」という。)と名前が付き、団体同士の新たな「つながり」が生まれたことで、それまで無かった協力・連携が出来るようになりました。

例えば、中学校から「年末に校門に飾る門松を作りたいが、どうやって作ったらいいかわからない」という相談があり、それに対して自治会が、門松作りをしているボランティアを紹介して、一緒に門松を作りました。

このように、協力してもらいたいことや、お知らせしてもらいたいことをこの「つながりタイ」で共有し、それに対して他の団体が、できる範囲内で協力をしてくるようになっていきます。

現在、この「つながりタイ」は3カ月ごとに開催しており、日見地区が少しでも住みよいまちとなるよう、話し合いをしています。

## あの手ーとんなん手ーいんな手ー!

濱田孝之さん 西町地区



「アゲをつなぐもの」が欲しいと思ったことが自治会だより「杉谷ニュース」を発行するきっかけだったと語る濱田さん。濱田さんは、西町杉谷自治会の会長として、「杉谷ニュース」を通じて様々な情報を会員に発信しています。

ぶにらみ」と題したコーナーなど、読み応えがある紙面に、毎号楽しみにされている会員も多いそうです。元小学校の教員として理科を教えるかたわら、長年PTA新聞の編集委員もされていたという濱田さん。読みやすい文章づくりをはじめ読み手への配慮が随所に伺える紙面づくりを心がけておられるそうです。

地域で起きた出来事は勿論、『今月の植物』と題して毎月季節の植物に関する豆知識等を紹介するコーナーや政治や事件など日常の出来事を独自の視点で語る(切る)『や



## 多趣味で人生をいきいきと!



皆さんも是非ご覧下さい!

「カシヤツ!カシヤツ!」という小気味良いシャツタ音とともに、被写体へ熱い視線を向ける濱田さんの姿は、西町地区ではすっかりおなじみの光景になって

います。また、カメラを片手に全国各地を訪れるという濱田さんは、自宅の現像室で自ら写真を現像し、様々な写真展にも作品を出展されているそうで、地元のおふれあいセンターにも多くの作品が展示されています。



また、濱田さんは料理もお好きとのことで、濱田家の食卓には、ひと手間加えた手づくり料理が並ぶそうです。なんと、正月のおせち料理づくりもほぼ毎年濱田さんが担当されているそうです。濱田さんの奥様が羨ましい限りです。

社協会員募集中!!

『地域なんでも情報局』は、市民の皆様からお寄せいただいた社協会費により発行しています。





ま〜るくな〜れ〜♪

平成25年12月15日、福田地区にあるマリナシティマンション住民による餅つき大会が開催されました。この餅つき大会は、一昨年の11月にマンション内に自治会を立ち上げた際に、自治会で行う目玉事業の一つとして検討されていたもので、今年度初めて実施され、初めての試みにもかかわらず、マンション内の幼児から高齢者まで、約100名の方々が集まりました。何しろ初めてのことであり、道具も何もない状態でしたが、近隣の自治会が「きね」や「うす」などの道具を快く貸して下さり、

みんなで餅つき 顔なじみ!

# マリナシティマンション 餅つき大会



ヨイショッ!

「またするときは、声掛けてください。」と大変喜ばれました。「先輩たちの知恵を借りないと我々だけでは出来なかつたので、高齢者サロンに参加している皆さんの協力がものすごく助かりました。」(役員談)ということでした。最後に「以前は、地域の中で当たり前餅つきをやっていたが、今は、餅つきをするという事がなく、そういう意味から、実際に餅つきを体験することで、若い世代にも餅つきを継承していつてもらえれば嬉しいし、今回、餅つき大会がマンションのみんなが顔を合わせる良い機会となつたので、毎年恒例行事にして行きたい。」(役員談)とのことでした。



ぺったんぺったん!

もち米は、知り合いの高齢者施設からの寄附でまかなったり、もち米はどれくらい蒸したらいいかを、お米屋さんへ教えてもらったりと、近隣の皆さんからの協力がありました。また、若い人たちは、餅をついたり、まるめたりした経験がほとんどなく、どうやっていいか分からない住民が多い中、自治会が発足する前からマンション内で実施している「高齢者ふれあいサロン」に参加している高齢者の方々に「やり方を教えて下さい。」とお願ひしてお手伝いしていただき、立派な「お餅」を作ることができ、当日、お手伝いいただいた何人もの高齢者の方からも

## 高齢者支援スタッフ研修会

最初は、体をほぐす体操から始め、簡単にできる手遊び、歌を歌いながら全身を使ったレクリエーションや手話を組み合わせた体操などを紹介いただき、皆さん楽しみなが、皆さん真剣な表情で講師の話聞きながら実践をされていました。楽しいだけでなく、脳の活性化を促したり、転倒予防に役立つ

会のできるレクリエーション」と題し、日本レクリエーション協会公認レクリエーションインストラクター 松山眞理子先生を講師にお招きし、時折、笑いも交えながら、レクリエーションや健康体操等を教えていただきました。

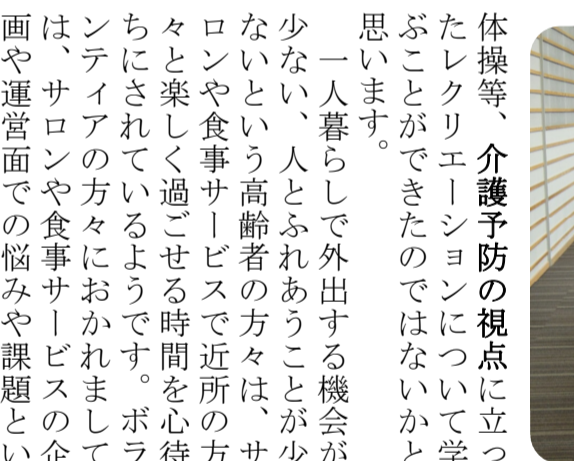


ストレッチで 体をほぐしましょう♪

長崎市社会福祉協議会では、平成25年11月25日と12月2日、2回に分けて「ふれあい食事サロン」と「高齢者ふれあいサロン」(以下、「サロン」という。)のボランティアの方々を対象に「高齢者支援スタッフ研修会」を開催しました。当日は、144名の方々に参加いただき、笑顔いっぱい、元気いっぱい、やさしい、楽しい、楽しい、楽しいをつくる「サロンや食事



体操等、介護予防の視点に立つたレクリエーションについて学ぶことができたのではないかと、思います。一人暮らしで外出する機会が少ない、人とふれあうことが少ないという高齢者の方々は、サロンや食事サービスマンで近所の方々と楽しく過ごせる時間を心待ちにされているようです。ボランティアの方々におかれましては、サロンや食事サービスマン企画や運営面での悩みや課題といったご苦労も多いかと思います。が、地域の高齢者の方々のためにご尽力いただいていることを大変ありがたく、心よりお礼申し上げます。今後とも引き続きご協力くださいますようお願い申し上げます。私たちが社会福祉協議会も事業のよりよい運営と推進を図るために一層の支援に努めていきたいと思



チャット照れますな〜

左の写真を見て、これが何かおわかりになるでしょうか？洗面器、タオル、スリッパ、歯ブラシ、爪切り、はし、コップ、ティッシュユなどなど、日常の何でもない品物が並んでいます。これは、個人差はあると思

ますが、病院に入院をする時に、揃えなければならぬ必需品です。こんなもの病院に入院する時に買えばいい、と思われられるかもしれせん。しかし、歳をとって、足腰が弱ってきた時に、もし、階段を踏み外して転倒した際に骨折でもして、緊急入院!となった場合に、果たして買っているでしょうか?そんな時に、前もってこれらの必需品を揃えておけば病院でも不便な思いをしなくて済みす。でも、なかなか自分で揃えるのは...という方が多いのではないかと思います。そのういった方々のために取り組みを始めたのが、古賀地区にあ

## Good アイデア!



この取り組みが始まってから1年ほどが過ぎましたが、今では、町内の高齢者に限らず、「他の町に住んでいる親のために用意したいので、チェックリストをください」といった声もあつたそうです。町内の1人の困った人の一から始まったこの取り組みは、鶴の尾町だけでなく他の町の困っている人も笑顔になっています。

この「入院お助け袋」は、品物はほとんどが百円ショップで購入できるもので、自治会が作成したチェックリストをもとに、自分で買います。しかし、自分で買えないことが困難な方には、実費負担で自治会の方が代わりに購入することもできます。

鶴の尾町自治会です。鶴の尾町では一昨年に、町内の高齢者が緊急入院する事態があり、入院してから病院が必要なもの、民生委員が揃えて非常にとバタバタしたことがあつたそうです。そんな時、「町内の高齢者のお宅に、前もって入院に必要な物を、袋に入れてまとめておき、いざ入院となつた時は、その袋を持って入院すればいいようにしたらどうですか?」という提案があり、それがきっかけで、町内の高齢者の方を対象に、自治会で作ることになりました。